関東鉄道廃止区間乗り通しの旅！

1年　関鉄ファン

　2025年10月、関東鉄道株式会社（本社土浦市、登嶋進社長）は2026年3月31日をもって一部路線を廃止すると発表した。その対象となった路線は以下の通りだ。

①土浦駅～中貫～石岡駅線（清水南～西山間／千代田庁舎～国府3丁目間）
②かしてつバス　石岡駅～玉造駅～借宿～鉾田駅～鉾田駅線（玉造中学校～鉾田駅間）
③水戸駅～海老沢～鉾田駅線（城之内原～鉾田駅間）
④水戸駅～大和田～鉾田駅線（西三角～鉾田駅間）
⑤鹿行北浦ライン　麻生温泉白帆の湯～潮来駅～道の駅いたこ線
⑥つくばセンター～（直行）～研究学園駅～（直行）～グッドマン常総～道の駅常総線

今回廃止対象となったのは主に鉾田市内を走る路線だ。今回の廃止で鉾田市内からは一般路線バスは全て撤退したことになる☆。（高速バスあそう号は引き続き運行中）

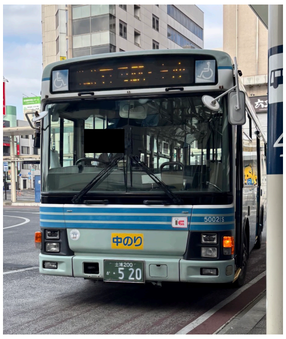
ISHIOKA-SHAKO
石岡車庫
並木東
石岡駅
中貫
土浦駅

～第一章　鉾田・石岡編～

　2026/3/22。中学校を卒業して春休みに入っていた僕は友達のKくんと鉾田・石岡方面へ廃止路線の乗り通しにでかけた。

【7:25 つくばセンター→7:55土浦駅西口】

　つくばセンターでKくんと合流し、今回の旅の出発地である土浦駅へと向かった。



【8:00土浦駅西口→8:50石岡駅】

　まず初めに、中貫以北の殆どが廃止となる土浦・石岡線に乗車した。中貫以南はある程度地元の利用客が見られたが、以北になると僕らと同じ目的以外で乗った人はほとんど見られなかった。国道6号をひたすら北上した。この車両は、2026年3月末をもって廃車となった

〈車両紹介〉5002IS　いすゞエルガミオ KK-LR233J1
2003年式で、関鉄グリーンバス※1初の新車。正面・側面共に「ワンステップ」の表記がなく、最後部にカーテンがついているのも大きな特徴であった。

【9:20石岡駅→9:50柿岡車庫】【10:15柿岡車庫→10:45石岡駅】

　次に、時間があったため柿岡往復を行なった。道中、果樹が多く見られ、のどかな山里を走って行った。柿岡車庫はかつては柿岡営業所として機能しており、最盛期は21両の車両が常駐していた。平成23年の営業所廃止後も令和3年4月15日までは窓口営業は行われていたが、今は事務所併設の待合室が一般開放されて残る。（中には禁煙のポスターが貼られていたが、かなりタバコ臭かった。）その奥にはNPOバス保存会のスペースとなっていて、貴重な車が多く残されている。そのなかにKくんの一番の愛車であった P6025 が留置されており、感動の再会を果たした（Kくんは P6025 が現役であった時代に、これに乗るために直行の一本前の土浦二高経由に乗車し二高で降り、直行に乗り換えるという奇行を行なっていた。）

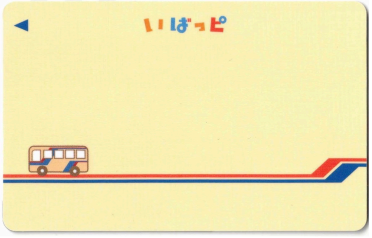
柿岡車庫
石岡駅方面
土浦駅

＜車両紹介＞9579IS 日産スペースランナーRA PKG-RA274MAN
2007年製で、2026年に習志野新京成バスから移籍してきた車。カマキリミラーが大きな特徴だ。

その後は石岡駅10:57発の常磐線で偕楽園駅へ行き、偕楽園11:35発の臨時バス水戸駅行きに乗って水戸駅へ行った。この日は梅祭り最終日であったため多くの人が訪れていた。車両は水戸色のBYD EV 2253MT。派手でかっこいい車だ。

＜車両紹介＞2253MT BYD K8 2.0
24年に導入された中国製のEV。車体のデザインは水戸市の地域の観光をアピールしたもので、あなたが思うかっこいいバス」をテーマに一般公募し応募された作品から厳選されて決定された。「水戸黄門の着物の色を彷彿とさせるイエローに、水と緑の自然都市をイメージした青緑色の水玉模様と梅の花を散りばめた。流線は納豆の糸引きをイメージ。」
（同時に、土浦とつくばにも一般公募デザインで導入された）

水戸駅では鉾田線の発車までの5時間あまりは茨城交通独自のICカード「いばっピ」を買って茨城交通の路線にのって大工町往復をした。（Kくんは水戸漫遊きっぷを使った）茨城交通には関東鉄道では見られないツーステの古い車（最古参は1987年式の1102）から最新のエルガEV（鯉渕に5台導入済）まで多種多様な車両が在籍しており、とても新鮮であった。新型エルガEVはBYDなどとくらべるとデッドスペースが多く、座席定員がかなり少ない印象であった。向かい合う形のボックス席は少し気まずかった。茨城交通はPASMO・Suicaなどの全国交通系ICカードが使えないが、PayPay、クレジットカードなどでの決済が可能である。しかし、支払い方が複雑すぎると降車にかなりの時間がかかってしまっていた。



お昼には駅ビルの中に入っている「つけめんTETSU 壱の木戸」で中華そば（950円）を食べた。学生証を提示すれば温玉が付いてきた。

【16:40水戸駅→18:00鉾田駅】

続いて本日のメインディッシュの水戸・鉾田線（海老沢経由）に乗車。水戸駅出発時点では全ての席が埋まるほどの乗車率であった。千波湖のそばをすぎ、茨城町役場あたりを過ぎると5名程度乗っていたマニア以外はいなくなってしまった。途中すこし眠ってしまった。最後の、ドライバーさんの放送によるとこのバスに乗りに来た人の数が今までの週末で一番多かったらしい。

＜車両紹介＞
2020HK いすゞエルガミオ PDG-LR234J2　11年製
元つくば中央営業所所属の2020YTで、つくバスの車として活躍した。つくバスの塗装の上から関鉄の一般塗装を施したため色が変なのが特徴だ。他につくバス車から一般塗装車になったのは石岡の2018IS,2025ISなどがいる。

関東鉄道
鉾田駅
Hokota Sta.
水戸駅方面
石岡駅方面
茨城空港方面
新鉾田駅方面

【18:15鉾田駅→19:25石岡駅】

鉾田駅からは「かしてつバス」に乗り換え石岡駅へ。水戸駅から乗ってきたマニアの人たちはみな同じバスに乗り換えた。鉾田駅は関鉄バスの営業所にもなっており、多くのバスが留置されていた。周りは何もなく少し寂しい感じがした。かつては水戸から大洗経由で茨城交通の路線も伸びており、車庫も置かれていた。途中かしてつバス専用レーンを走行した。

＜車両紹介＞1950HK 日野レインボーⅡ PDG-KR234J2
2007年製で、元つくば中央営業所所属の1950YT（つくば200か76）。1949YTとともに2021年に鉾田営業所に転属した。

その後は電車で土浦駅まで移動し、（水戸から来た人はこの列車まで同じだった。）つくばセンターまでバスでかえった。これにて第一章とのお別れの時間となってしまいました。

〜第二章　常総・潮来編〜

2026/3/29。春のダイヤ改正を3日後に控える日に、前回に乗ることができなかった二路線に乗りに出かけた。今回はなかなかバスだけでは移動しづらかったため道中は親の車を使って移動した。

【8:00つくばセンター→8:40道の駅常総】

まず初めに乗ったのは、つくばセンター・道の駅常総線だ。2023年10月1日に運行を開始した路線で、グッドマン常総への通勤需要のための路線だった。しかし、わずか2年5ヶ月という短い間で廃止となってしまったのは残念だ。運行は朝夕に2往復だけと通勤需要に特化しており、なかなか乗るのが難しい路線であった。（以前に、一高16:33発の直行で研究学園駅まで行き、17:45発の道の駅常総線の上りでつくばセンターに戻ったことが1回だけあった。）今回乗ったときは僕と同じ目的で来ていたカメラを持ったおじさん1人しか利用はなかった。

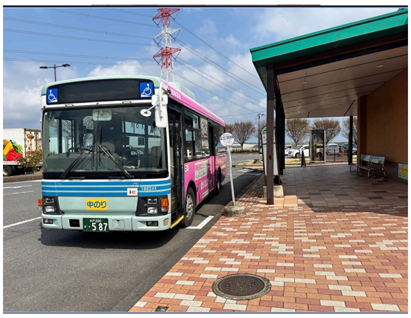
関東鉄道
道の駅常総
つくばセンター

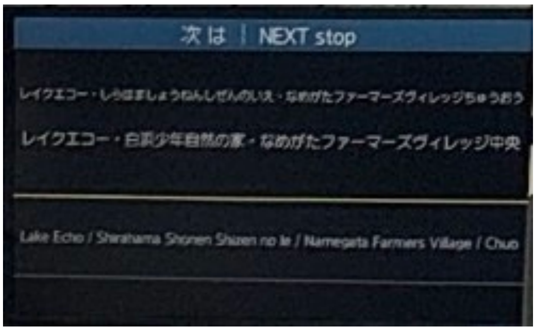
〈車両紹介〉2047YT いすゞエルガミオ SKG-LR290J1
2013年に自社発注した車で、パチンコ屋のREITOラッピングが施されている。REITOラッピングには2種類※2あり、最近東京ベイシティ交通から移籍した土浦営業所の9582TCや守谷営業所の2005MRなどはタレントのひろみが大きく載った新ラッピングが施されている。

　その後は父親の車で約2時間かけて麻生温泉まで行った。10時くらいに到着し、次の発車までは麻生温泉白帆の湯に入浴した。麻生温泉は天王崎観光交流センターコテラスに隣接しており、入浴料大人740円（17:00以降は530円）。大浴場には3種類の内湯と露天風呂があり、霞ヶ浦ビューを楽しめた。個人的に今どき瓶の牛乳自販機があるのは嬉しかった。食堂もおいしそうだった。少し前まではカスミテラス霞ヶ浦の併設のコンテナに宿泊もできたようだが、2026年2月25日をもって運営を終了していた。（しかし同年4月1日よりモビリタコート行方として再オープンを果たした。）

【11:35麻生温泉白帆の湯→12:50道の駅いたこ】
　白帆の湯発車時点での利用者は筆者一人だけ。途中の区間で多少の利用はあったものの、最後まで乗り通したのは私のみであった。途中の「レイクエコー・白浜少年自然の家・なめがたファーマーズビレッジ中央」は関東鉄道のバス停で最長だった。（現在はつくばセンター・荒川沖駅線にある「産総研つくば東事業所つくば研究支援センター入口」である。）反対に最短なのは下妻市にある筑西・下妻広域連携バスの「江」バス停。これはローマ字表記でも一文字で、日本最短のバス停名である。）1時間30分ほどの長い乗車であったがあっという間だった。終点に着いた時に存在を忘れられており、次の行き先に変えられてしまっていたため、パスモではなく現金で払う羽目になった。また、乗車証明書をもらおうとしたが、もう配布終了らしくgetできなかった。
　昼食は道の駅いたこの定食屋「おふくろ亭」でいただいた。好きなおかずをとっていく給食スタイルで唐揚げ定食をたべた。大きい唐揚げはサクサクしていておいしかった。

＜車両紹介＞
1883HK いすゞエルガミオ PA-LR234J1改
2005年製で元は水戸営業所所属の1883MTであった。公式側（ドアがある方）にのみパスモラッピングが施されている。霞ヶ浦広域バスの代走としてよく土浦駅でも見かける車だ。





次は | NEXT stop

レイクエコー・しらはましょうねんしぜんのいえ・なめがたファーマーズヴィレッジちゅうおう

レイクエコー・白浜少年自然の家・なめがたファーマーズヴィレッジ中央

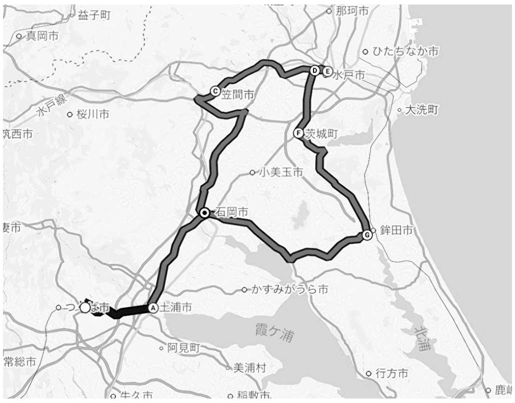
Lake Echo / Shirahama Shonen Shizen no Ie / Namegata Farmers Village / Chuo

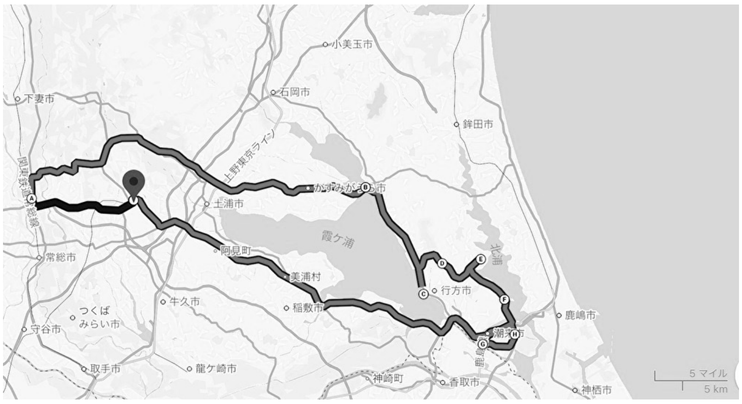
◯まとめ

今回の多くの路線が廃止となってしまった。たしかにどれも利用者は少なく、運転士不足などで厳しいのはしょうがないがどの路線も魅力的であり、地域の足がなくなってしまうのはとても寂しい。今後は今ある路線を大切にし、ドライバーの皆様への感謝とリスペクトを忘れずに関鉄バス路線完乗を目指していきたい。ただ、行き先表示幕の写真がうまく撮れなくて残念だった。水戸駅ロータリーは比較的撮りやすく、その中でも茨城交通に車両は撮りやすかった。

バス旅は手軽に旅行気分を味わうことができる。みなさんもぜひバス旅に行って関鉄バスを応援してほしい。土日祝日は関鉄の一般路線が全て乗り放題となる一日乗車券が大人800円で発売されているのでお得だ。（つくばセンター・土浦駅間を1往復するだけで元がとれる。）

移動マップ


益子町
真岡市
那珂市
ひたちなか市
水戸市
笠間市
水戸線
桜川市
大洗町
茨城町
小美玉市
石岡市
鉾田市
かすみがうら市
土浦市
霞ケ浦
北浦
阿見町
美浦村
行方市
常総市
牛久市
稲敷市


小美玉市
下妻市
石岡市
鉾田市
上野東京ライン
関東鉄道常総線
かすみがうら市
土浦市
霞ケ浦
北浦
阿見町
美浦村
常総市
行方市
牛久市
つくばみらい市
守谷市
稲敷市
鹿嶋市
取手市
龍ケ崎市
神崎町
香取市
神栖市
5 マイル
5 km

＜注釈＞

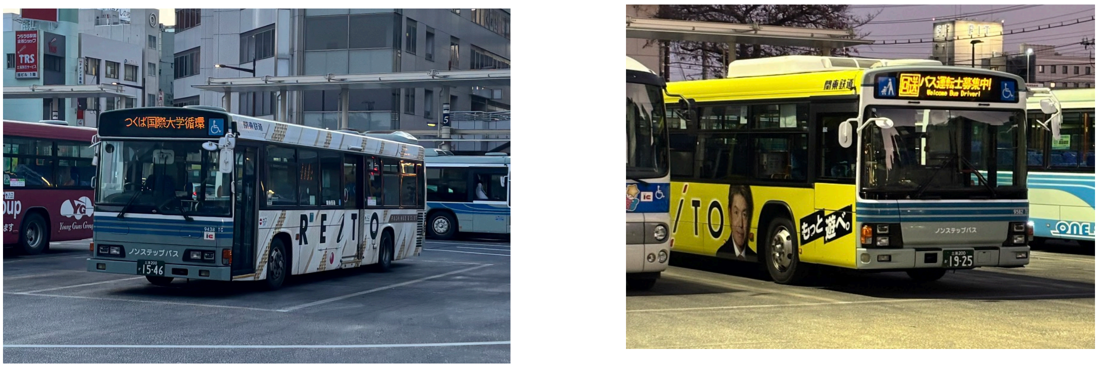
※1：関東鉄道石岡営業所と鉾田車庫営業所は2002年7月の分社から2024年7月16日までは関鉄グリーンバス株式会社として運営されていた。また、下妻車庫営業所も2001年6月から同日まで下妻本社営業所として関鉄パープルバス株式会社によって運営されていた。（現在は関東鉄道つくば北営業所の車庫扱いとなっている。）上で紹介したP6025もこの時代に東急バスから移籍した日産ディーゼルである。（図右下）

パープルバス
つくば 200か 570
下妻本社 営業所
Thank you!
関鉄パープルバス
関東鉄道

パープルバスが吸収される前に6025の車内に掲示されたポスター。
（Kくん撮影）

NON STEP
ノンステップバス

※2：左が2047YTとおなじ旧ラッピングの9438TCで、右が新ラッピングの9582TCである。


つくば国際大学循環
REITO
ノンステップバス
関東鉄道
バス運転士募集中!
Welcome Bus Driver!
もっと遊べ。
ノンステップバス